

レースっていいよね

- 第7回 - 「兄ィはいいヒト」の巻

フォーミュラニッポンをTVや雑誌でチェックしている方ならご存知だろう。LOLAはえらいこっちゃである。遅い。この一言に尽きる。ただでさえ厄介なのに加えてレギュレーションが追い討ちをかけているのだ。価格抑制のためのカーボン禁止令。はっきりいって、トップカテゴリーにおいては(って言うか、フォーミュラニッポンにおいては)これは愚策だ。仮にカーボンの代わりにガラスやアルミといった材料を使ったところで、実際にはアルミ材ではモノコックに沿う3次曲線をカバー出来無いし、ガラスでも結局カーボンで製作する際の全く同じ作業手順が必要だから(型を用意したり、副資材とか)つまるところ、さほどのコスト削減に役立つものではない。逆に普段使わないガラス資材の手配や性質などにより非効率的な時間と金を使っている気がしてならない。

フォーミュラ4などエントリーレベルのレースで価格抑制のため材料の厳しい規定を設けているが、エントリーの出せる資金とドライビングレベル、スピードレベルに見合った設定であり、この規定は筋が通っている。仮にも日本のトップカテゴリーを張っているレース(モノコックなどの主要構成部品がカーボン製であるにも関わらず)の規則としては余りにもこっけいで的外れなものである。これはエフワンでベリリウム製キャリパーについて材料が懸念されていることとは全く質の異なるものだ。

おそらくはJAFやJRPの偉いさん方が机上で思いついた策なのだろうが、おっさんども、頭使え！全く。こんなにも憤慨するには訳がある。そう、煮ても焼いても食えないLOLAをボディーモディファイで何とかしようとヤッキになっている渦中のチームに私がいるからである。

冷静に見て、ワンメイクレースで使うのならあのLOLAは悪くないと思う。特に路面コンディションやタイヤに恵まれないインター3000レースでは確かにLOLAのとんがらない性能は利点になるだろう。それに何より、皆(基本的に)同じクルマに乗っているわけだからさほど性能差を感じる事も無い(レイナードとローラの様な)だろう。しかし、である。残念ながらフォーミュラニッポンにはマシン競争が存在している。はっきり言ってLOLAはフォーミュラニッポンに必要とされるマシン性能を見誤ってしまったとしか考えられない。

とにかくわが社では忙しくモディファイに追われていることもあり、イライラやウップンもあるわけだ。そんな状況の中、JGTCのついでではあるだろうが我社にドライバー、影〇兄ィが顔を出しに来た。会社に来るのは別に珍しい事ではないのだが、ガレージの更に奥にある普段ドライバーは足を踏み入れる事のないコンポジットルームにやって来たのだ。これには一瞬驚いた。部屋から去ろうとする兄ちゃんに「速くしますからもうちょっと待ってください」と声をかけた。もっとも、私が直接メンテしている訳ではないが、改造パーツを作っている当事者であり、おそらくチーム内で最も屈辱的で悔しい気持ちであるだろうドライバーの気持ちが凶ってとれるから自然に出た言葉だったのだ。その言葉に兄ちゃんは

「宜しくお願いします!」

っていい笑顔で答えてくれた。腐らずにそう言ってくれた事、正直言ってとても嬉しい。そして同時に「ああ、この人はさすがプロだな」とも感じた。実はこの瞬間まで兄ちゃんはイメージ的にあまり好きなドライバーではなかったのだがこの瞬間から応援したいドライバーナンバー1になってしまった。一瞬にして180度変わるとは何とたわいない私のココロなりか!? それにしてもイメージというのは恐ろしいものだ。今までスイマセン、兄ちゃん…

それはともかく、ホントは辛いだろうけど笑顔を見せて頑張るドライバーの気持ちが報われる日が早く来て欲しいものだ。